



住まいの相談会を開催します！

様々なお悩みにお答えします！



路地の奥の敷地に築60年の木造建物を所有しており、建替えを希望しています。どのような建替えが出来るのでしょうか？

借地に老朽木造建物を所有しており、賃貸住宅に建替えようと考えています。どのような点に気を付ければ良いのでしょうか？



冒頭にミニ講座

『住まいの建替え手法～共同建替えについて～』を開催します！

荒川区には、狭小宅地や接道要件を満たさないために個別には建替えが難しい宅地が多くあります。このような場合には、ご近所数軒と一緒に建替えを行う「共同建替え」という手法があります。「共同建替え」は、室内での階段の上り下りがいらぬワンフロアの住まいが実現できたり、個別建替えに比べて資金負担を軽減できるというメリットがあります。今回は、共同建替えの事例を通し、その仕組みや検討の進め方についてご紹介します。

☆事前に下部に記載のお問い合わせ先までご予約いただきますと、当日のご案内がスムーズになります

日時

平成29年

① 3月3日(金)

午後7時～9時30分

※受付は午後6時45分から午後8時30分まで

② 3月4日(土)

午前9時30分～12時

※受付は午前9時15分から午前11時まで

場所

センターまちや
4階会議室B



来年度の住まいの相談会の開催予定

今年度もたくさんの皆様にご参加いただき、またご好評も頂けたため、来年度も引き続き住まいの相談会を開催いたします。詳細についてはHP やチラシにて随時ご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ】

荒川区防災都市づくり部防災街づくり推進課防災街づくり係（区役所北庁舎2階⑭窓口）
電話：03-3802-3111（内線2828） fax：03-3802-4104

町屋二・三・四丁目地区防災まちづくり 平成29年2月発行

まちやタイムす No.34



発行： 町屋二・三・四丁目地区防災まちづくり協議会
荒川区 防災都市づくり部 防災街づくり推進課
編集協力：(株)地域計画連合

『防災まちづくり協議会』の活動について



第三回防災まちづくり協議会の様子

町屋二・三・四丁目地区では、「町屋二・三・四丁目地区防災まちづくり協議会」において、防災まちづくりの取組みを進めています。

今年度の活動として、10月15日に災害時における道路の大切さへの理解を深めるため、「消防車の細街路走行実験」を行いました。12月3日には「不燃化セミナー」を開催し、防災の権威である室崎益輝先生にご講演をして頂きました。

また、地域で行われている防災まちづくりの取組みを紹介する展示を行うなど、参加者の皆様に防災・減災を身近に感じてもらうための機会作りもしています。

内容の詳細については、内面をご覧ください。

第三回防災まちづくり協議会の検討内容

平成28年度第三回防災まちづくり協議会(2月13日)では、今年度の協議会活動の振り返りや来年度の活動に向けての意見交換を行いました。

消防車の細街路走行実験によって明らかになった地域の課題の解決に向け、必要な取組みや今後の方向性についての意見が出ました。

今後も、防災まちづくり協議会では地区の防災性の向上を目指し様々な活動を行って参ります。皆様もぜひご参加ください！

協議会員の意見など

- 消防車の走行実験により、この地区には緊急車両の侵入が困難な場所があることを実感し、6m道路の拡幅整備の重要性を認識した。
- 地区内の消防車の侵入の妨げとなる電柱の位置を把握し、対策を検討することも必要ではないか。
- 地域のルール等を検討するに当たって、地域の問題点や将来の理想像を皆で共有する必要がある。

消防車細街路走行実験の結果報告

開催日：平成28年10月15日（土）

◆実験による成果◆

- 災害時における道路の大切さへの理解を深めるとともに、町屋二・三・四丁目地区で進めている防災まちづくりの取組み（優先整備路線や細街路の拡幅）への意識啓発になりました。
- 消防車の細街路等への進入時の課題を確認したことで、消防車の到着までの自助と共助による地域防災力を高める大切さを認識できました。

◆走行ルート◆

→ 走行ルート → 撮影方向



この地図は東京都縮尺1/2,500地形図（平成27年度版）を使用したものである。（MMT利許27049号-41）無断複製を禁ずる。



消防作業実演
消防作業に必要な空間を確認



スタンドパイプ実演
災害時に自分たちで放水を行えるよう、設置方法を確認



③豊島通りとの交差部分
隔切りを設置しており走行がスムーズである



②豊島通りとの交差部分
切り返しをせずそのまま進入可能



①最初の曲がり角
隔切りされておらず、電柱が建っており曲がるためには何度か切り返しが必要

◆ミニ消防・防災フェアの開催◆

- 町屋四丁目児童遊園では、尾久消防署のご協力による火災体験・PRスペースや、当地区における防災まちづくりの取組みPRのブースを設け、参加者の理解を深める取組みを併せて行いました。



○消防車の展示



○防災クイズ



○煙体験ハウス



○初期消火体験



○消防服を着てみよう

不燃化セミナー ～防災・減災まちづくりフォーラム～

を開催しました！

開催日：平成28年12月3日（土） 開催会場：サンパール荒川

基調講演

登壇者 **兵庫県立大学防災教育研究センター長 室崎 益輝 氏**

講演タイトル **来たる災害に備える
～地域の皆さんが主役の災害への備え～**



■基調講演の要旨

- 予想外の災害が次々に起こる現代で、その備え方のポイントがあります。キーワードは「減災」。これは被害をゼロにしようと思わず、少しでも減らそうという考え方です。
- 「事前に準備をする時間の足し算」、「自助+公助という人間の足し算」といった対策の足し算によって「被害を引き算」できるように備えていくことが必要です。
- 高齢者を助ける子供・若い世代が減るなか高齢者が自分で逃げられるよう健康を維持するようにすれば、これも防災になります。
- 普段から災害に備え住民同士で話し合い、防災について意識することが必要であり、災害時をよりリアルに想定した“地域の皆さんが主役の防災計画”を考えていくことが重要です。

◆まちづくりカフェの開催報告◆

11月11日に、「地域活動」や「防災」に興味があってもなかなか第一歩を踏み出せないという方の声にこたえ、気軽に話し合える「まちづくりカフェ」を開催しました。その際の意見交換の内容を報告しました。

【テーマ】

- もしも自分が高齢者だったら…？
- お住まいのまちは安全・安心ですか…？
- 家族・地域でできることはなんでしょう…？



◆中学校防災部の活動報告◆

区内中学校防災部の活動報告を行いました。



◆参加された皆様からのご意見など◆

- 日頃の生活に追われ、防災、減災に対する知識が足りないことを痛感しました。
- 中学生の「助けられる人から助ける人へ」のモットーと取組みは大きな力になると思う！
- 地域の結びつき大切さがいかに重要かと思いました。だからこそ、その地域の中でことが起こった時に何ができるかを事前に話し合っておくことが大切だと思いました。